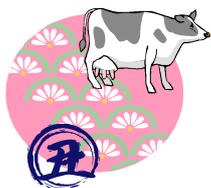


2021年（令和3年）1月1日（金曜日）



新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひいたします。



さて、昨年は、世界中が「新型コロナウイルス」の猛威に襲われ、その世界中の感染者は、すでに「約八千三百万人」（死者数約百八十万）を超えて、今年中には感染者「一億人」を越えるのも時間の問題となっている。しかも、わが国では、第一波、第二波とは明らかに違う第三波により、数多くの感染者をはじめ、重症者や死者数或いは医療関係のひっ迫などが一気に深刻化して、まさに「最悪の事態」に陥っている現状である。この「最悪の事態」を收拾させるベストの方法は、今のところ（本来であれば「ワクチンと特効薬」ではあるが）、日本の場合は、一つは、人の動きを止めること（これは新たな感染者を増やさないため）、そして、もう一つは、PCR 検査を徹底的に行なって一人でも多く（自宅療養ではなく）「隔離」すること。この「二つ」を同時に行なうことであるが、そのためには、思っ切って「非常事態宣言」を発出して、今のような「二、三割」を減らすような中途半端な政策ではなく、一気に「七割、八割」を減らすような政策に切り換えなければならない。今までの政策は、経済を動かすためにはある程度の感染者は仕方がないという考え方に立っていたが、それでは「感染者」が増え続けるのは当たり前のものであり、そうではなく、感染者を抑えることが、結果として「経済を動かすこと」になるという、世界中が採用しているこの「考え方」に切り換えなければ、日本の「感染者の増加」を止めることはでき得ない。——しかも今年の世界経済の前半は、恐らく、アメリカもヨーロッパも日本もその他の地域も大変であり、それゆえ、中国の「一人勝ち」になる可能性が高い。ただ唯一の「救い」は、イギリスでもアメリカでもすでに「ワクチンの摂取」が始まっていることであり、その「安全性と有効性」がしっかり実証されれば、長く続いたトンネルの先に「確かな光明」が見えて来たということであり、今年の後半には、世界経済もよくなる可能性が出て来たということである。

ところで、個人的には、昨年は、夏目漱石の有名な『草枕』と『こころ』という作品を、多くの時間を費やして徹底的に全面的に改訂して、去年の12月下旬にようやく完成したものが「夏目漱石の世界 草枕とこころ（最上版）プレミアム」であり、興味や関心がありましたら、ぜひとも「バブー」サイトか「アマゾン」kindleの方を訪ねてみてください。そして、今年の手配ですが、最初はドストエフスキーの『罪と罰』をもう一度徹底的に見直してみたいと思うと共に、新しい「作品」にも積極的に取り組んでいきたいと思っていますので、昨年同様に、今年もよろしくお願ひいたします。

